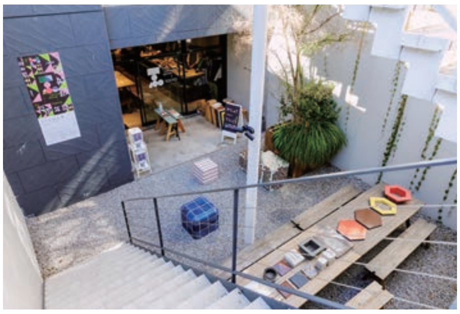
みの MINO EDO
東京⇌笠原情報誌 MAIL版

発行：多治見市美濃焼タイル振興協議会
TEL 0572-43-2141
発信：多治見市・笠原町東京情報局
tilesea.ms@gmail.com
＊協議会のウェブサイトでも公開しています。

NO 230
2023.2.24

「タイル百年祭」、東京・原宿で開催！

「タイル名称統一100周年」の集大成として、1月27日（金）～28日（土）、dotcom space Tokyo（東京都渋谷区）にてイベントを開催。クリエーターによる「タイル未来会議」をメインに、展示やワークショップ、施工実演など、様々なアプローチによりタイルの魅力を伝えた。



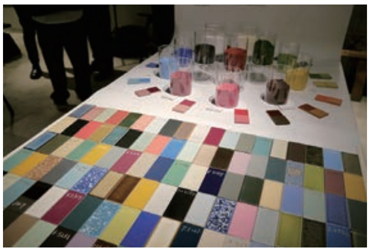
会場は原宿駅近く、細い路地を入った場所に建つビルの地階にあるギャラリー。外階段を下ると入り口があり、その手前に地上まで吹き抜けの小さな空間を備える。天気にも恵まれ、設置されたタイルベンチで会話を楽しむ来場者の姿も見られた。

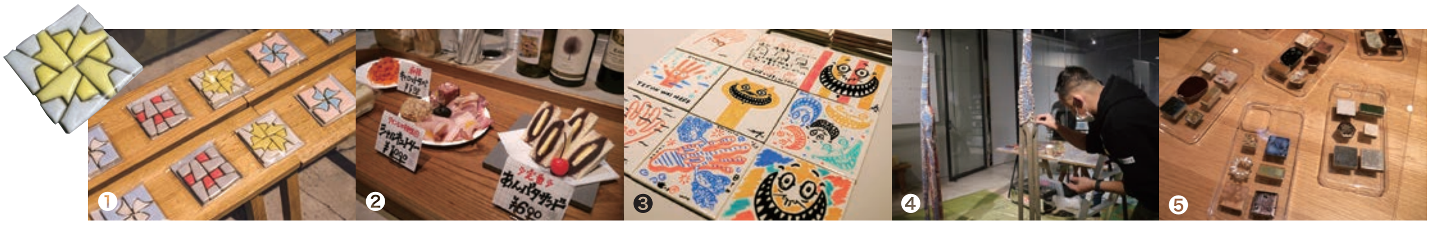
昨年11月に多治見で行われた「タイル百年祭」の会場と比べてこじんまりした空間ながら、タイルの製造工程の展示や施工実演、ワークショップと、内容は多彩。前回同様、名古屋で人気の喫茶店「シヤチル」が出店、タイルのお皿で軽食を提供した。

初日17時からのパネルディスカッションには、グラフィックデザイナーの佐藤卓氏、建築士の永山祐子氏、タイル業界を代表して2人が登壇。タイルとの関わりやその魅力、展望を語った。終了後も閉場となる21時までにぎわいが続いた。

2日目は14時からアーティストの鷲尾友公（ともゆき）氏、Yoshi47（ヨシフォーティーセブン）氏によるトークセッションを開催。タイルを使って制作した作品にまつわるエピソードが語られた。終了後はタイルに絵付けをするライブイベントを実施し、人気を集めた。喫茶やワークショップも盛況の中、17時に閉場。タイルの魅力が凝縮された2日間となった。

タイルの原料となる土の調合や釉薬について紹介。





❶本物そっくりのタイルクッキー、❷あんバターサンドはタイル皿で提供、❸絵付けしたタイルはオーブンレンジで焼き付けして完成、❹モザイクでキリン像を制作するタイル職人・佐々木康至さん、❺iphoneケース作りのワークショップ

タイル未来会議

＊Touch The Tiles公式YouTubeチャンネルにてアーカイブを配信。
https://www.youtube.com/@touchthetiles9603

27日 パネルディスカッション

モデレーター：横里 隆氏（株式会社 上ノ空／uwa no sora・元ダヴィンチ編集長）」

左から後藤氏、佐藤氏、永山氏、木野氏、横里氏。

佐藤 卓氏（グラフィックデザイナー）

職人さんにお任せ

（デザインを担当した地下鉄銀座駅のタイルの話から）職人の方を信じてお任せすると、想像を超えた、いい空間に仕上がります。デザイナーが勉強不足で無理な相談をすることがありますが、そのとき「できない」と言うのではなく、「こうしたらできる」と前向きに返してくれると嬉しいですね。意見のキャッチボールができると、可能性が広がります。

　街を歩くとタイルを使った建物が山ほどあって、魅力的なもの、そうでないものもある。その違いはなにか、分析をしたいです。

永山祐子氏（建築士）

質感に色気

釉薬の濃度や焼き方でグラデーションを作り出したタイルにはまっています。タイルは触るとひんやりし、つるつる、ざらざらなど、独得な質感があります。コロナ禍でオンライン化が進みましたが、人間は感覚に訴えかけるものに囲まれたいと思うもの。今後は質感を重視する時代が来るのではないでしょうか。ニューヨークでタイルを使ったスカイスクレイパーを見たのですが、ガラス張りより質感に色気がありました。釉薬の厚みのあるタイルを使うことで、今までと違った表情をもった建物になると思います。

後藤泰男氏（INAXライブミュージアム主任学芸員）

100年後も色褪せない

タイルは何年たっても色褪せることがありません。100年前、4000年前のタイルを今見ることができるし、現代のものも100年後に残る。サステナブル（持続可能）な素材です。様々な技術が研究されていて、いずれ太陽光で作る時代が来るかもしれません。

木野 謙氏（全国タイル工業組合理事長）

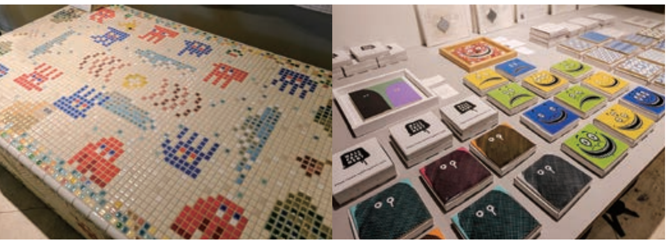
素晴らしいバイプレイヤー

サステナビリティは、製品のライフサイクルで考えることが必要。タイルは土を原料とし、使用期間も長い。技術の進歩でCO_2の排出量も30年前に比べ4分の1に減りました。タイルは素晴らしいバイプレイヤーにもなる。ガラスウォールなどのアクセントにも使ってほしいです。

PLAY.TILE（プレイドットタイル）

＊タイル百年祭の公式Instagramにてアーカイブを視聴可能。
https://www.instagram.com/tile_centenary_fes/?hl=ja

左から鷲尾氏、Yoshi47氏。



鷲尾氏がデザインしたタイルベンチ（左）。Yoshi47氏は6名のアーティストによるプロジェクト「WALL FRAGMENT」に参加し、美濃焼タイルで作品を制作（右）。右側が同氏の作品。

28日 トークセッション

モデレーター：花山和也氏（株式会社新町・山の花オーナー）

鷲尾友公氏（アーティスト）

人を迎える空間に

ベンチのタイルを張ったのはタイルメーカーさんですが、完成した作品を見たらすごくよくて。タイルに興味を持ちました。元々興味はあったのですが、身近で売っていなかったんです。

今度スタジオに喫茶室を作る予定で、そこにタイルを施したい。張るのは大変だけれど、愛着が出てくるし、手触り感が伝わります。人を迎える空間にタイルがあるのはいいなと思います。

Yoshi47氏（アーティスト）

手触り感が魅力

海外でタイル張りの家を見たのを機に、タイル工場を見に行ったり、きれいなタイルを集めたりするようになりました。タイルもそうですが、手作りのものは、ゆがんでいたり、曲がっていたりするところに人間味や温かみを感じます。南紀白浜のホテルの客室に、白と青のタイルを使って壁画を制作しました。職人さんに教えてもらいながらタイル張りも行いました。タイルには手触り感があり、平面の絵よりも贅沢な感じがします。

見たことのないタイルに会いに「ジブリパーク」へ

2022年11月1日、スタジオジブリ作品の世界観を表現する「ジブリパーク」が愛・地球博記念公園内に開園した。メインエリアの「ジブリの大倉庫」ではタイルをふんだんに使用。タイルの制作から施工までを担った白石普さん（株式会社Euclid主宰）、吉永美帆子さん（同スタッフ）に完成までの道のりや、今の思いを伺った。

ジブリパークとは

愛・地球博記念公園（愛知県長久手市）内に県の施設として整備。5つのエリアで構成され、第一期として「ジブリの大倉庫」「青春の丘」「どんどこ森」の3エリアが開園した。2023年度までに全エリアを開園予定。

Ⓒ Studio Ghibli

森の中にあるジブリパーク

最寄り駅・東部丘陵線（リニモ）の「愛・地球博記念公園駅」を出ると、目の前に約194ヘクタールという広大な緑地が広がる。いわゆる“テーマパーク”とは異なり、ジブリパークの5つのエリアはこの豊かな自然環境に包まれて存在する。

「ジブリの大倉庫」は、映像展示室や企画展示室、ショップなどを備えた施設で、公園北口から10分ほど歩いた場所にある。建物は閉館が決まっていた温水プールをコンバージョンして利用。外観はほぼそのままで装飾もないが、中に足を踏み入れれば一転、色彩にあふれた大空間が広がる。

オレンジや黄、緑、ピンクの外壁の洋館風の建物を背景に、ヨーロッパの広場を彷彿とさせる中央階段が来場者を出迎える。

そこを覆うタイルの色鮮やかさ、不思議な形に目を奪われた。光を反射してきらめくタイルは、立体感があってウロコのようにも見えてくる。階段の有機的なシルエットとあいまって、生き物のように動き出しそうだ。

白石 普（しらいし・あまね）
タイルの制作から施工までを一貫して手掛けるタイル職人。株式会社Euclidを主宰。モロッコで修業した経験を生かし、イスラムの幾何学タイルの手法を用いてタイルをデザイン。社名は「幾何学の父」と称される数学者の名前に由来する。

白石普さん（右）、スタッフ・吉永美帆子さん（左）。

「ガウディのようにはしたくない」

白石普さんがタイル施工の依頼を受けたのは2021年7月のこと。それから約一年をかけ、タイルの制作から施工までを一貫して担い、この中央階段の装飾を完成させた。

依頼時に見せられたのは、ジブリパーク制作の指揮を執る宮崎吾朗監督*によるデザイン画。曲線で描かれた階段に、タイル一枚一枚が繊細に描き込まれていた。アントニ・ガウディ*やフンデルトヴァッサー*を思わせたが、「ガウディのようなクラッシュタイル*にはしたくなかったんです」と白石さんはきっぱりと言う。「タイルの形にストーリー性を込めたいというのがぼくの考え。タイルの素材は粘土で、その一番の武器は、形を自由自在に変えられることですから」。

かくしてジブリパークオリジナルのタイルの制作がスタートした。

＊宮崎吾朗監督
「三鷹の森ジブリ美術館」の総合デザインを担当、初代館長を務める。2005年、愛・地球博で「サツキとメイの家」を制作。06年、『ゲド戦記』でアニメーション映画を初監督。2020年、3DCG作品『アーヤと魔女』の監督を務め、2021年に劇場版が公開。現在は「ジブリパーク」の監督として制作全体を指揮。

＊アントニ・ガウディ
（1852〜1926）スペイン出身の建築家。代表作の一つ、バルセロナのグエル公園は、クラッシュタイルで装飾されている。

＊フリーデンスライヒ・フンデルトヴァッサー
（1928〜2000）オーストリアの芸術家、画家。建築デザインも手掛けた。人間と自然の調和をテーマとしたカラフルで有機的なデザインが特徴。

＊クラッシュタイル
タイルを割って使うこと。曲面を仕上げることに適する。

エリアごとにコンセプトを設定
中央階段をエリアに分け、それぞれにコンセプトを設定。職人さんたちにも伝え、理解してもらったうえで、作業に取り組んでもらった。
トトロ–「森」、壁–「熱」、手すり–「風」、池–「愛」、噴水と柱–「知」、エレベーター塔–「音」

「熱」をコンセプトとした壁部分。

「南十字星」と「ブーゲンビリア」

ジブリパークのタイルには、どんなストーリーが込められているのだろうか。

「ジブリの大倉庫」は熱帯植物園のようになると聞いたこと。「ジブリ」の意味である「サハラ砂漠に吹く熱風」。2005年に開催された愛・地球博のテーマは「自然の叡知」。そこから「南十字星」「ブーゲンビリア」が浮かんだ。南十字星の4つの星でブーゲンビリアの葉を表現し、最初の形が生まれた。その形を、コンパスを使って幾何学的に展開し、基本形となる7つのタイルができあがった。モロッコで修業した経験をもつ白石さんならではの手法だ。ちなみにブーゲンビリアはモロッコの街でよく見た花という。

モスクのドームの曲面を幾何学的な形のタイルが覆うように、これらのタイルを組み合わせることで、様々な角度の曲面を覆うことができる。

吾朗監督にタイルに込めた意味や、形の展開について説明したところ、「タイルだね」と一言。「いわゆるイスラムでのタイリング*の考え方をご存知だったのですね」。そのときの様子を白石さんは嬉しそうに語った。

焼成温度を変えて色幅を出す

タイルの形と同様、色についても「見たことのない」と形容したくなる鮮やかさと透明感をたたえる。

釉薬は、釉薬メーカーに制作を依頼したオリジナル。同じ釉薬でも焼成方法やタイルの生地によって発色が異なるため、タイルの色数は約150色にもなった。まず大きさが変わらないように、一定の温度で焼きしめた後に釉薬を塗布。焼成には、トンネル窯、シャトル窯、電気窯といった複数の窯を使用。鮮やかな発色になる低温焼成を基本とし、同じ種類の窯でも複数のメーカーの窯を使うことで、何段階か温度を変えた。ちなみに電気とガスといった熱源の違いでも色の風合いが異なるという。

低温焼成のタイルは、高温焼成のものに比べて傷みやすく、屋外の環境には不向き。この色彩が実現できたのは、「ジブリの大倉庫」が室内の施設だからこそと言える。

タイルの成形や焼成では、多治見、瀬戸、常滑のタイルメーカーの協力を得た。使用したタイルの数は、オリジナルのタイルのほか、リサイクルタイルなども合わせて約20万枚にのぼった。

初めて尽くし！？の現場作業

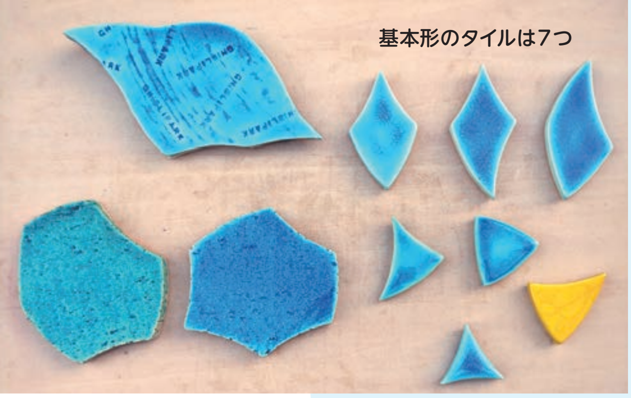
こうした制作過程について、「規模は違うけれど、やっていることは基本的に普段と同じ」と白石さん。一方、これまで経験のないことをたくさんさせてもらったという。吐水口の制作がその一つ。

「吐水口には、水のデザインがあります。焼き物は寸法や形が思い通りに仕上がるとは限らないのに、さらに水を動かさないといけない。水の勢いや量によってどんな音、造形になるのか、想像しながら作りました。とても勉強になりましたね」。

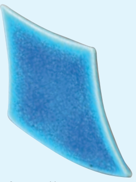
水場を覆うしずく型のタイルは、以前オリジナルで制作したもの。

花壇の上部は再生タイルをクラッシュタイルにして使用。

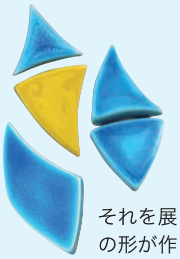
＊**タイリング**：図形で平面を隙間なく埋め尽くすこと。



基本形のタイルは7つ



最初に作ったタイル。



それを展開し、さらに6つの形が作り出された。

左側の大きめのタイルは、基本形のタイルを組み合わせた形。

1センチ厚で存在感
タイルの厚みは1センチ。見えるのは表面でも、厚みがあるほうが光の透過などにより、重厚感や素材感が伝わるという。

45ミリという絶妙
最初に作り出したタイルの幅は45ミリ。曲面に張るために、タイルのサイズを小さくすると多くの枚数を要し、施工の手間もかかる。しかし大きいと曲面を張ることは不可能。絶妙のサイズ設定は、タイル制作と施工の両方の経験があってこそ。

色のサンプル
タイルの形ができる前に、釉薬の制作を開始した。

エレベーター塔のタイル
外壁の菱形タイルと建物上部のかまぼこ型の装飾タイルは、白石さんがデザインを監修し、特注したもの。メーカー渾身の青色に注目。

廃棄タイルを再利用
廃棄タイルに、釉薬をかけ低温で焼き直して再利用。様々な種類の土で作られているため、同じ種類の釉薬でも発色が違う。

もう一つは、通常は建設会社の監督が現場を指示するところを、現場が佳境に入ると、タイルに関わる部分はすべて任されたこと。吾朗監督の白石さんへの信頼ゆえだろう。

吉永美帆子さんは、「この規模の施工に関われたことはよい経験になりました」と振り返る。

助っ人として常時6〜7人、最終段階では10人のタイル職人が現場入りした。ところが通常の施工とは異なる部分が多く、最初からスムーズにはいかなかった。たとえば、小さなタイルは目地の隙間をとって並べてある30センチ四方のシートで張ることが多いが、ここではタイルを一枚ずつ手で張っていく。曲面の施工に不慣れな職人もいた。

「こういう現場はほかにないので、みんな最初はどうすればいいのか、分からなかったようです。目地の幅の感覚も人によって違うので、一つ一つ説明が必要でしたね」(吉永さん)。「手伝ってくれた人に気持ちよく仕事をしてもらえるように」と、白石さんと職人さんたちの橋渡し役を担い、ときには励まし、作業が順調に進むように配慮した。

こうして白石さんや吉永さん、職人さんたちの初挑戦が積み重ねられて、中央階段が完成した。

「タイルって面白いな」と感じてほしい

ジブリパークの来園は日時指定の予約制。11月のオープン以降、先の日程まで早くに予約が埋まるほどの人気ぶりだ。

来園した人に、注目してほしい部分について伺うと、少し考えてからこう返ってきた。

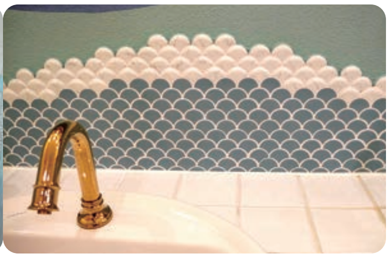
「"注目"は目で見ることですが、タイルは見るだけでなく、実際に触ってほしいですね。なでて、愛でてほしい。いろんな釉薬や土を使っているから、表面はつるつるもあるし、ざらざらもある。子どもたちに『タイルってきれいだな、面白いな』と感じてもらえたら一番、嬉しいですね」

「子どもたちがタイルに携わる仕事をしたいと思えるように、感動するものを作っていきたいです」と添えたのは、タイルの生産量減少に加え、後継者のいないメーカーも多いという現実を危惧しているからだ。

一方、開園以来、多くの取材依頼があるといい、それはタイルの美しさに注目が集まっていることの証しだろう。

子どもたちがタイルと出会い、それが小さな種となり、近い将来、街に花が咲くように、公園や建物が色鮮やかなタイルで彩られることを思い描いた。

サツキとメイの家のお風呂。



トイレの手洗いスペースにも。

ここにもタイル発見!

「ジブリの大倉庫」では、中央階段以外でもタイルが使われている。トイレはクラシカルな模様張り、建物内部の階段の蹴上げにも。「愛・地球博」のときに建てられた「サツキとメイの家」には、可愛らしい昭和のタイル張りのお風呂がある。

INAXライブミュージアム企画展

Fashion On Tiles

あの時代、この国のおしゃれさん

4月11日(火)まで開催中！

今回の企画展では、装飾タイルに描かれた服飾に注目。ファッションという視点に加え、見せ方や会場の設えにも工夫。新たな切り口でタイルの魅力を伝えた。

タイルを模した衝立は、厚みも忠実に再現。
左上の３枚は西洋のタイル、上はイスラームの組タイル。

会場はタイルを等身大に拡大した衝立で仕切られ、様々なファッションを身にまとった人物たちが目の前に現れる。周囲にはスカートに見立てたドレープカーテンを巡らせ、優雅な空間を演出。「タイルとファッション」というこれまでにない視点に加えて、いつもと一味違った設えで、導入部から期待をもたせる。

展示は「世界のタイル博物館」を有するINAXライブミュージアムの収蔵品のうち、人物が描かれた17〜20世紀のタイルの中から84点を選出して構成。そこに描かれている様々な服飾を、タイルの用途や技法、文化的背景にも触れながら、読み解くという趣向となっている。

展示では、西洋、イスラーム、中国の３つの地域に分けた上で、ファッションの注目ポイントを提示。服飾に注目してタイルをじっくりと鑑賞するのは新鮮な体験だ。当時の文化や風習についても知ることができ、一枚のタイルから様々な情報が読み取れることに驚く。

最後のコーナーではコマ撮りアニメーションを上映。タイルに描かれた小さな人物たちは、展示の導入部分で等身大となり、最後にとうとう動き出す！「服飾をしっかり見せたい」という心意気が伝わってきて、コミカルな動きに笑みをこぼしつつ、“ファッションショー”を楽しんだ。

タイルこそのカラーコーディネート!?

当時、庶民階級が黄色い服を着用することはなく、タイルの彩色顔料の観点から配色したとされる。

多彩人物文タイル

オランダ・1850-1900年
服飾の年代：17世紀

女性は前開きのブラウスとロングスカート。ブラウスは紐でブラウジングさせてギャザを寄せる。

モノクロ写真のような美しい陰影

人物を凹凸で表現し、色釉の厚みの違いで濃淡をつけるエマイユ・オンブラン手法でつくられている。

緑釉婦人図タイル

イギリス・1902年頃／服飾の年代：20世紀

エドワード王朝時代のスパニッシュスタイルの豪華なドレスを身にまとい、当時のジャポニズムブームを反映して扇子を携える。

INAXライブミュージアム「土・どろんこ館」

愛知県常滑市奥栄町1-130
開館時間　10:00〜17:00（入館は16:30まで）
休 館 日　水曜日（祝日の場合は開館）

アニメーションは200ミリ角の白いタイルを使用したスクリーンに上映。音楽はタイルを叩いた音などで制作したオリジナル。

＊アニメーションはウェブサイトで公開中。
https://livingculture.lixil.com/ilm/see/exhibit/fashionontiles/